

令和6年度
公私幼保合同研究会まとめ
保育実践（乳児保育）研究会



大阪市保育・幼児教育センター

【ねらい】

乳児期における発達段階や発達の道筋を理解し、保育者の役割について学び合い保育の専門性を高める

【講師】

大阪大谷大学
教授 長瀬 美子

【テーマ】

乳児期の発達理解

～個々の思いに添った援助について考える～

【研究方法】

- ・生活や遊びの「場面記録」から保育を振り返り、発達理解を深める
- ・「場面記録」をもとにグループワークを通して、実践を交流し検討する

参加園所

大阪市立木川第Ⅰ保育所	大阪市立小田町保育所
ももの木保育園	れもんのご玉造保育園
大阪市立南大江保育所	大阪市立御崎保育所
大阪市立松之宮保育所	にじのとり保育園
みとう保育ルーム	大阪市立鯉江保育所
大阪市立味原保育所	こぐま保育園
大阪市立浪速第Ⅰ保育所	大阪市立生野保育所
大阪市立加島第Ⅰ保育所	野江サンフレンズ保育園
大阪市立酉島保育所	大阪市立万領保育所
大阪市立御幸保育所	りんりん保育園
大阪市立八幡屋保育所	大阪市立千本保育所
大阪市立矢田教育の森保育所	念法保育園

実施一覧

回数	実施日	内容
①	5月30日（木）	講義「乳児保育で大切にしたいこと」 自己紹介 クラス保育の情報交換
②	6月26日（水）	グループワーク 「生活の場面記録」共有する
③	8月19日（月）	グループワーク 「生活の場面記録」の分析
④	9月19日（水）	講義 「乳児期のあそびと環境①」 グループワーク 「おもちゃやあそびについて意見交流」
⑤	10月 8日（火）	グループワーク 「あそびの場面記録」共有する 講義 「乳児期のあそびと環境②」
⑥	11月 5日（火）	グループワーク 「あそびの場面記録」の分析
⑦	12月19日（木）	グループワーク 「保護者対応の経験を交流する」 講義 「保護者との信頼関係づくり ー状況と意思を尊重しながら関係をつくる」
⑧	1月21日（火）	「保護者との信頼関係づくり」 グループワーク「関係につながった事例を交流する」
⑨	2月13日（木）	研究報告会において グループワーク「一年間の学びを語り合い発表においてまとめる」
⑩	3月 6日（木）	研究報告会

第 1 回

「乳児保育で大切にしたいこと」

1. 乳児保育に対する理解

- ・「発達の著しい時期」の保育である

2. 主体として尊重し、「思い」「意欲」「主体性」を育てる

- ・大人の適切な養護が不可欠
- ・適切な表現（ことば）は未獲得
- ・安心できる見守りの中で「自分でできる喜び」を育てる
- ・「自分でしたい」という気持ちにそった援助

3. 子どものサインに適切に応える

- ・「自分は大切にされている」「この人は信頼できる」 基本的信頼感
- ・ことば以外の表現に気づく力・読み取る力を発揮すること

4. 向かい合って共感しながらあそび、遊ぶ楽しさを育てる

- ・楽しさとの出会いをつくる
- ・「やってみたい」気持ちを大切に（大人の援助を受けながらも「できた」という経験）
- ・楽しさへの共感 子ども同士が共感し合える経験において

5. 子ども同士のかかわりに向けて

- ・あそびを通して「時間と空間の共有」から「楽しさの共感」へ

第 2 回

「生活の場面記録」から

◆グループワークで記録を共有する

- ・ 共通、類似している事象
- ・ どのようにとらえたらよいか悩みがある場面
- ・ 他の方法（働きかけ）も考える



第 3 回

◆グループワークで共有したことを考察・分析する

- ・ 振り返りながら次につなげていく
- ・ 違った見方もあるということを理解することも大事
- ・ 子どものサイン（意思表示）に気付く
- ・ 指導者が願いや見通しをもつことは大事だが強制しない

第 4 回

「乳児期のあそびと環境 ①」

◆ 0歳児 ～楽しさと出会うことから～

- ・ あそびを通して「快」「楽しさ」を知る
- ・ 対象に興味をもつ ⇒ 五感を通しての探索へ
- ・ 向かい合って大人と楽しさを共感することから
- ・ 安心してあそびに集中できる環境づくり



◆ 1～2歳児 ～いっしょが楽しくなってくる時期～

- ・ 「いっしょ」が楽しい いろいろないっしょがある
- ・ それぞれの興味・関心を大切に 個性や固有性を大切に
- ・ 対象・教材の工夫 「おもしろい」「楽しい」が実感できる
- ・ 「安全」と「活動性」を両立する環境



◆興味をもって自ら働きかけたくなる環境づくり

- ・ やってみたいことと「出会える」環境
- ・ 子どもが自分で「見つけられる・選べる」環境
- ・ 集中しやすい環境 必要なものは子どもの視界に
- ・ 他者の姿が「感じられる」「見える」環境
- ・ できるだけ禁止や制止をしなくて済む環境づくり

◆ 保育者が楽しんであそぶ姿を通して

- ・ 楽しさとの出会いをつくる
- ・ 楽しさへの共感
- ・ 子どもと子どもをつなぐ



第 5 回

「乳児期のあそびと環境 ②」



◆「あそび」の実践について考察し、分析する

- ・一人一人の子どもにあった**保育内容**を選択できたか
- ・興味をもって自ら働きかけたくなる**物的環境**だったか
- ・**人的環境**である保育者は楽しさとの出会いを作り、楽しさに共感し子どもと子どもをつなぐことはできていたか

◆あそびの楽しさは子ども自身が決める

- ・信頼できる大人のそばにすることで、安心して自己選択し自己決定する何を選び、どのように使い、どうしたいのか 主体性の芽生え

◆保育者が考える「あそびの形」に急いでつなげようとしな

- ・保育者の意図や思いとちがった時にこそ、子どもの思いに寄り添い一緒に面白さを見出し共感する

第 6 回

「あそびの場面記録」の交流



ウレタンマットとフープを
組み合わせてバランス遊び



色が変わって見える
いろいろ発見虫メガネ



泳いだりシャワーを浴びたり
みんなでお風呂ごっこ



マスキングテープを貼ったり剥がし
たり... くっつき具合がちょうどいい



音が出ない、見て楽しむ
形の違うセンサリーボトル



ポンポンを色分けしたり、トング
スプーンで指先を使う遊び

第 7 回 ①

「保護者との関係づくり ー状況と意思を尊重しながら関係をつくる」

◆保育園、こども園の保護者との関係づくりー特性と強みについて

- ・ 日常からの関係づくりができる
- ・ 「対人関係援助力」専門性を生かした関わりができる
- ・ 一人で対応するのではなく、組織的な対応ができる
- ・ 関係機関との連携し、必要な機関につなぐことができる

1. 保護者・子育ての状況を理解した関係づくり（最近の調査の結果から）

- ・ つながり、かかわりの変化 コロナ前とコロナ後の意識の変化
- ・ 保護者の子育てに対する感情 否定的な感情の増加
- ・ 子育てと自分の生活のバランス 「自分の生き方も大切にしたい」

2. 保護者との関係づくりで大切なこと

- ・ 保護者の意思を受容・共感すること
- ・ 保護者の不安を軽減する
- ・ 保護者の意思・要求に添ったかかわり

第 7 回 ②

3. なぜ、コミュニケーションの問題が起こるのか

- ・「情報伝達」とは異なるコミュニケーション
- ・コミュニケーションは意思の疎通であり感情が伴う
- ・コミュニケーションは信頼関係づくりにつながる

4. 日常からのコミュニケーション

- ・保護者と育ちの喜びを共有する 喜び、不安に寄り添いながら
- ・送迎時のコミュニケーション 労い/受容の姿勢で
- ・ノートを通してのコミュニケーション

5. 保護者に、お願いやケガを伝えるときには

- ・相手の状況を理解したうえで伝えなければならない
- ・理解と納得につながるように、経過や理由を丁寧に伝える
- ・一方的にならないように伝える

6. 相談を受けるときの対応姿勢

- ・否定せずに聞くこと
- ・保護者の「本当の気持ち」を探す
- ・保護者の感情をこちらの物差しで決めない

第 8 回

「保護者との信頼関係づくり」

◆グループワーク 「関係につながった事例を交流する」

こちらの願いにはクッション
を入れて伝え方を工夫する

共感の姿勢を見せること

保護者との信頼関係づくりで
大切なこと

こどもの姿を伝え合う日常
の会話を大事にする

保護者の状況を
把握し対応する

否定をしない

子どもとの関係づくりをしっかり
することで信頼してもらえる

第 9 回

「研究報告会において」

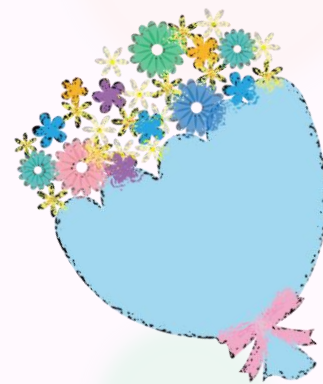
◆グループワーク 一年間の学びを語り合い、発表においてまとめました



第10回

「研究報告会」

◆研究会の学びを発表しました



一年間お疲れさまでした♡

学びとなったこと

研究会メンバーによるまとめ資料

乳児の生活づくり

～安心と安全の中で発揮する力～

- 意思、思いをもった主体として尊重すること
 - ・言葉にならない思いを理解しようとする
- 安心できる見守りの中で育てる「自分でする喜び」
- サインに気づき、読み取り、応える
 - ・大切にされている」「信頼できる」と知る



自己肯定感の基礎となる
(根本は毎日のささいなできごと)

乳児の遊び ～「楽しい！」との出会い～

- 遊びを通して「快」「楽しさ」を知り、五感を通して探索
経験を積み重ねる
- 「やってみたい」を叶える環境づくり
(できるだけ禁止や制止をしなくてすむ環境)
- 「子どもと保育者」「子どもと子ども」をつなぐ
- 遊びの楽しさは子どもが決める
(保育者の考える形式にとらわれないこと)



大切なのは「できた！」ではなく「楽しい！」

保護者との関係づくり

～「教えてあげる」のではない、「一緒に」とりくむ～

- 日常からの関係づくり
 - ・傾聴、受容、共感（気持ちを理解する）
 - ・保護者の感情を保育者の物差しで決めない
- 保護者の不安を軽減し、心配を安心に近づける
 - ・取り組み、見通し、援助など丁寧に伝える
- 思い・要求にそった関わり（非言語の場合もある）



研究会を通して学んだこと



- 「発達著しい時期」の保育のあり方
 - ・安全が保障され安心して過ごすことで力が発揮できるようになる
 - ・楽しい！」「おもしろい！」と出会うきっかけをつくる大切さ
- 職員間や家庭と連携し、信頼関係を築く大切さ
- 記録と振り返りの大切さ

いろいろな方と出会い、経験や思いを伝え合うことで気づきがあったり、自分の保育を見つめ直したりすることができました。
ありがとうございました。



2024 年度 保育実践(乳児保育)研究会で学んだこと

乳児の生活づくり

1. 子どものサインに気付くことの大切さ

○乳児期は言葉で意思表示が難しい。(表情、行動で表現する)

→乳児なりの意思表示をつかむ関わりが必要

○子どものサインに気付くには？

個々に丁寧に関わることで子どものサインに気付くことができる

→サインに気付いて関わってもらうことで子どもの安心感につながる

○苦手なことへの関わり方

苦手なことを頑張るには支えが必要

例)保育士に褒めてもらいたい

手伝ってもらいたい など

→「解決」支えは一人ひとり違う、またその日ごとに違うため、個々の性格、前後のできごと、その日の体調等を知っておくことが重要

◎子どもは場面ごとに、いろいろな表現で思いを伝えることを理解し、関わるのが大切



乳児の遊び

2. 子どもの思いに沿った保育を展開する

○遊びの楽しさは子ども自身が決める

どれを選ぶか、何をどう使うかなど子ども自身が決められる遊びを取り入れたり、環境づくりを行ったりすることで子どもの興味の方向を捉える

→主体性を育むことにつながる

玩具は一通りしか遊び方がないものではなく、いろいろな遊び方ができるシンプルなものが良い

○保育士が考える「遊びの形」に無理に、急いでつなげようとしなくていい

→保育士の意図と違うときこそ子どもの姿に立ち返って考える。その中で気付きが遊びを展開していくヒントになる

○子どもの気付きを大切に

→子どもの気付きは新しい遊びにつながるきっかけになる

◎子どもの姿から興味・関心の方向を捉え、遊びを展開していくことが大切である



保護者との関係づくり

3. 保護者との信頼関係づくりは保護者理解から

～保護者との信頼関係を築くには？～

○保護者を理解する

信頼関係は理解から始まる

○日々のコミュニケーション

理解するためには保育士からの働きかけが必要

・保護者を知るきっかけになり、関わり方や手立てが分かり、どこに援助が必要か分かる
・相手に届き、納得できるコミュニケーションを心がける

→そのためには伝えたいことを相手に合わせて発信する

○保護者の話に耳を傾け、まずは気持ちを受け止める、思いに共感する

○子どもと信頼関係を築く

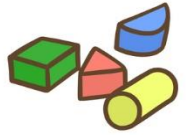
子どもが保育士を信頼していることは保護者の安心につながる

◎保護者との信頼関係を築くための関わりは子どもとの関わりにも通ずるものが多い

→子どもへの関わりを保護者との関わりにも生かしていく

まとめ

私が1年間、保育実践研究会に参加する中で学んだことは、子ども理解の大切さである。乳児期は言葉での意思表示が難しい時期でもあるので、保育士が行動や表情からそれぞれの思いに気づき、好きなことや苦手なことを知った上で、活動を考え、個々に関わっていくことが重要である。そういった関わりが、子どもの安心感や信頼関係の構築につながっていくと思う。個々や場面に応じて様々な関わり方をしてみたり、子どもの行動をよく観察したりし、子どもを理解して保育を進めていくことにこれからも努めていきたい。



子どもの安心感（生活づくりについて）

食事、排泄等、生活の場面で子どもが嫌がる場面は多々ある。その中で、子どもにとって無理なくその行為が嫌いにならないことを意識していきたい。

例えば、食事の場で『食べたくない』という気持ちを保育者が受け止め、時には「食べさせてもらう」満足感や嬉しさが子どもにとって大切だと学んだ。

大好きな先生に見てもらっている、寄り添ってもらった経験が、安心感をもち、自信や次への『やってみよう』と意欲につながっているのだと改めて感じた。

保育者のねらいと願い（遊びについて）

遊びの中で保育者の意図や思いと違ったときこそ、子どもの姿に立ち寄ることが大切だと学んだ。『興味をもたなかった』『違う遊びになった』と出来なかったことに目を向けがちだが、『もっと面白いこと見つけた！』というワクワクした子どもの気持ちを大切にしたい。

保育者の考える「遊びの形」に急いでつなげようとせず、遊びの楽しさを子ども自身が決められるように見守っていきたいと考える。

信頼関係づくりへのつながり（保護者との信頼関係づくりについて）

子どもとの信頼関係づくりは、保護者との信頼関係づくりにつながっていると気付いた。0歳児クラスなので「〇〇先生大好き。」と言葉で保護者へ伝えることは少ない。しかし、関わりの多い保育者を見て表情を明るくしたり、抱きつきに行ったりなど、保護者の目で見て分かる信頼関係が、安心につながるのだと実感した。その中で、子どもの良いところを伝える、保護者の気持ちに共感するなどコミュニケーションをとることで信頼関係づくりにつながると感じる。

全体を通しての学び

場面記録を書くことで日々の保育の振り返りを行うことが出来た。

また、他園の研究会メンバーと交流し、違う角度の考えを聞くことで、さらに子どもの気付きや思いを考える機会となった。

研究会メンバーと環境構成、玩具の意見交流をした際には、新しい発見や学びがあった。目の前にいる子ども達が、『どれを選ぶのか』『何をどのように使うのか』に目を向け、発達に合う玩具や、したいことができる環境をつくりたいと考える。



2024年度 保育実践(乳児保育)研究会で学んだこと

1. 乳児の生活—遊びと生活のつながり

0歳児の生活は、保育士が生活リズムを整え、日々安定した同じ関わりを続けることで、安心感・情緒の安定につながっていくところに基盤がある。それを前提に、遊びの中でも生活につながる環境や仕掛けがあり、子ども自らが遊びながら、生活のイメージに結びついていくところが大切だと感じた。0歳児も声かけや仕草によって、生活行動と手順を日々学んでいるので、参加する意欲が感じられたときに、すかさず「じぶんで」と能動的に行った過程を経験できるように、日々関わる必要があることを学んだ。



2. 乳児の遊び—原体験と繰り返し

0歳児の遊びでは、特に「五感を使う原体験の大切さ」と「繰り返し遊ぶからこそ生まれる学び」があることを知った。一人ひとりの思いや興味の違いがあることで、一つの遊びから様々な楽しみ方が生まれてくる。人的環境、もの、聞こえてくる音、感触全てが遊びを発展させるスパイスになりうる。また、そのモノ・コト自体と初めて出会うのも0歳児の活動ならではの感じた。保育者がそばで一緒に楽しみながらも、子どもの（微細な感覚で）の気づきを感じて、楽しさを言葉にして伝えていきたい。



3. 子どもを真ん中に置いた保護者との関係づくり

保護者との関係構築は、何よりも日々の小さな関わりを丁寧に積み重ねていくことだと学んだ。子どもと同じように、保護者一人ひとりにも性格や異なる背景があるので、自分や園の考え方だけではなく、子どもを真ん中に置いた中立な関係性を築いて行くことが大切だと再確認した。乳児保育はチームプレイであることも念頭に置き、様々な見方で対応していくことが大切だと感じた。また、子どもの課題解決を目的とせず、関係構築の過程そのものを大切にしたいとも感じた。

4. まとめ

研究会全体を通して、同じ年齢を担当する先生方と意見を交わすことができ、「こんな方法もあった」と視野が広がった。同時に「この悩みは共通しているな」と感じたことも多かった。日々の関わりを丁寧に行いながら、自分自身も楽しむ保育を行っていきたいと感じた。また、子どもの発達も遊びの過程も、ぶつ切りではなくらせん状につながっているものであると思うので、環境や準備物を変えながら繰り返し遊び込める環境を整え、その中で変化した子どもの姿に敏感にアンテナを張り、子ども理解を深めていきたい。

～保育実践（乳児保育）研究会を通して学んだこと～

生活

★「でも今日はむずかしいかな」

「ちがったな」

- ・保育者の思いや願いに子どもの姿が沿わないときや働きかけに対して子どもの反応が良くなかったとき
 - まずはその子どもなりの気持ちを受け止めて寄り添う
 - 子どもが何を発信してきているのか？
サインを適切に読み取り、応えられていたか？
 - 前後の様子等合わせて振り返り、生活リズムや計画の見直しも合わせて行う



- ♥自分の思い（つもり）が届き、尊重されたことで…
 - 気持ちを切り替えて自分から動ける
 - やがて自分・相手の思いを大切にすることにつながる

心が動いた瞬間から発達が始まる
子どものサインを読み取って共感し、言葉にしてい

【保育の中でこれから心がけていくこと】

★まずは安心できる存在に

- ほんの少しでも毎日肯定的な働きかけをしていく

★“分かってくれた” が信頼に

- なぜそのような言動をしているのか、自分の価値観で決めつけず、一緒に喜び、考え、対話を通して背景や思いを引き出し、相手のことを知っていく

★小さな気付きを発信・共有することから

- 自分が見えていない姿やその姿の多様な捉え方に気付く（多面的に見ていく）
- さらなる深い理解、より良い関わりにつなげていく

保育者→子ども自身が“自分で考え、自分の意志で”できるようになるための「支え」

★したい遊びを自分のタイミングで！

- ♥禁止や制止のない環境づくり（安全が保障されていることが前提）
 - 保育者の安心できる見守りの中で、子どもは遊びに集中できる
- ♥“いっしょ”を広く捉える
 - 向かい合って、真似して、同じ場所で、同じ時に、色んな“いっしょ”を知らせて楽しむことで、子ども同士をつないでいく

あそび

友達・保育者の存在、楽しそうな姿を原動力に
その子どもの世界が広がっていく

★保育者⇄保護者 互いに知る・理解する

- ♥日々のコミュニケーションで肯定的に子どもの姿を伝えていく
- ♥なぜ？どうして？そうしてほしいのか、保護者の気持ちを読み取る
 - 思いの部分伝え、本音を引き出し 一緒に考え、探していく
- ♥具体的に伝える（いつ、どのように）
 - 相手に伝わる手段で見通しが立つようにしていく
 - 「後で」は1日？3日？1週間？ 受け取り方は人それぞれ
 - 伝えているつもりでも伝わっていないことがある
 - 相手にどう伝わっているか？に重きを置く

保護者
対応

心配や不安が軽減→安心感→納得→信頼へ

先回りしてやってあげるよりも
“自分で”の機会・時間を尊重



保育実践（乳児保育）研究会で学んだこと

そんな日もある♪ ～乳児の生活づくり～



・自分の気持ちを前面に出す子どもに対して保育士は、様々な思いやねらいをもって日々関わっている。しかし、子どもの思いやその日の体調、心の状態を踏まえて「今日は難しそうだなあ。そういう日なのかも。」と折り合いをつけ、「まあいっか！」と視点を变えて、子ども自身も切り替えられる関わりをもつことが大切である。

安全はみんなの安心に ～乳児の遊び～

・安心して遊びに集中できる環境をつくることで、子どもへの禁止や制止の声掛けをしなくて済む。
⇒安全であることが、保育士にも余裕をもたせ、子どもの興味を知り、関われるので、子どものためだけでなく保育士のためにもなっている。

どんなときも笑顔で ～保護者との関わり～

・保護者を知ろうとする気持ちは、子どもたちを知ろうとする気持ちと同じように、積極的に関わるのが大切。
⇒いろいろな変化や気付きにつながり、信頼関係作りにもつながる。
・保護者から見た時に保育士が、いつも笑顔であることや、話しかけやすい雰囲気が伝わることも大切である。



学び・気付いたこと

☆子どもたちに関わることや、環境を含めた全ての保育が、必要なことがらであり、「心の余裕」が相互作用していることを感じた。
☆保育士間で子どもの姿を伝え合うことで、子どもたちの日々の成長につなげる糸口も見つけやすくなった。また、研究会で様々な意見や講義を聞く中で、子どもの理解を深め、日々の保育の振り返りを行うことができた。今後も保育力の向上に努めていきたい。

保育実践(乳児保育)研究会 まとめ

乳児の生活づくりで大事なこと、
学んだことから、取り組んでいること

生活の中での困った場面を記録をすることで、子どもが気持ちよく行動できるには、どうすればよかったかを振り返って考えることができた。またグループ討議で他の保育者の事例を聞いて、実践していることを自分の保育に取り入れることで、自分の中の引き出しが増えた。してほしい行動を伝えるだけでなく、子どもの気持ちを考え寄り添うことで安心感を与えることが大事だと思った。特に、乳児保育では子どもが安全で安心して過ごすことで力を発揮できるのだと改めて学んだ。

2、乳児の遊びについて学んだこと、再認識したことについて



・運動遊びで、保育者は揺れるフープの中を通ることを楽しめるように用意したが、子どもたちは中に座りこんで揺れることを楽しんでた。子どもが自分たちで遊び方を見つけるということに気付かされた。
・室内の遊びでは、大きなチェーンのおもちゃを自分ではつなぐことが難しく、保育者が長くつないだものを引きずって遊んでいた。そこで保育者が容器を用意することでぽとんと落として遊べるようになった。
これらのことから大人の考えだけでなく、子どもの姿を観察して楽しめそうな遊びを提供することが大事だと再認識した。



3、保護者との信頼関係づくりで大切なこと、これからの課題

保護者との信頼関係づくりでは、まず保護者の思いを聞き、気持ちを受け止めることで、不安や心配な気持ちを軽減することが保護者支援の第一歩だと感じた。子どもを大切に思うからこそ心配したり、不安になったりするので、私は日々の子どもの様子や成長を保護者に伝えることを大事にしている。保育者側のことを伝えるばかりではなく、保護者の思いを聞くことで自分の子どもをよく見てくれているという安心感につながると思う。しかし、外国籍の方とのコミュニケーションが難しいことが課題である。こまめに話しかけたり、話を聞いたり翻訳機能を使って意思疎通を図っていきたい。

4、研究会全体で学んだこと

子どもの姿をよく観察して子どもにあった声かけや遊びを考えることが大事だと改めて感じた。グループ討議をする中で他の保育者の考えや行動から学ぶこともあり、それを自分の保育に取り入れていくことで自分の保育観の形成につながるので、とてもいい経験となった。

🌸 保育実践(乳児保育)研究会 まとめ 🌸

乳児の生活づくり 《子どもたちの安心感をどうつくるのか》

- ➡快適で安心な環境があるからこそ乳児は力を発揮できる
- ➡子どもたちに必要な支えは一人ひとり違う
- ➡食事や排泄などは大事なことからこそ保育士は力が入ってしまいがち

「あ、ちがったね」「今日はここまでなのね」とワンクッションおいて落ち着いて接することが子どもたちの安心につながるという先生の講義が印象に残っている。子どもの表情・様子・態度などから要求や欲求のありかに気付いてあげられるよう、専門性を高めていきたいと思えた。日々の関わりの中で、子どもたちが心地よかったなと思える場面だったかな？という振り返りも大事にしていきたい。

乳児のおそび 《パズルや積み木は崩すコトが楽しいのかもね！》

- ➡個々の発達に合っているのかどうかをいつも考える
- ➡「どのように興味を示すのか」や「どんな動きをするのかな？」などのような具体的な視点をもって見守り、その子どもなりの発信に気付く
- ➡その子どもの中での満足を探ること

「大人が考える分かりやすい遊びにつなげなくてもよい」「遊ぶ楽しさは子ども自身が決めるもの」ということを意識するようになってから、子どもたちの遊びを観察することの大切さを改めて感じる事ができた。

保護者との信頼関係 《ポイントは相互理解！》

- ➡保育施設は毎日保護者と関わることのできる強みがある
- ➡伝えたつもりで伝わってなかったというケースがよくある
- ➡「教えてあげる」ではなく「ともに考える」という姿勢

連絡帳の保護者からのちょっとした言葉に意識をしっかりと向けていく、伝えたことが伝わったかどうかの確認をする、協力を仰いだときは、お礼と感謝を伝えることなど、日々のコミュニケーションの積み重ねを大事にするために、具体的なことを当たり前にすることが私たちの大切な仕事であると感じている。また、保護者との何気ない会話の中からも、保護者支援・育児支援につながることはたくさんあると思えたので、例えば雑談力を高めるなど、あらゆる視点での信頼関係づくりのスキルを磨きたい。

研究会全体を通して 《当たり前のことを大事にしたい》

毎月の研究会で「寄り添う」というキーワードを耳にし続けたことで、一見すると当たり前のことだと思いがちだが、グループワークや講義の時間に継続して参加すると、自身の意識から「寄り添う」という思いがなくなることはなく、しっかり落とし込めたなと感じる。日々の保育の中で、「今は受け止めよう！」「この場合はどう寄り添おうか？」などとその都度考える癖がつき、とてもよい学びになった。また、他園の保育士の皆さんとの関わりがとても新鮮に感じ、遊びのヒントや、関わり方の工夫を知ることができたので、自身の保育に必ず生かしていこうと強く思う。



保育実践(乳児保育)研究会で学んだこと



生活

「今日はむずかしい」という判断も大切

研究会に参加しグループワークや講義を聞く中で、乳児期の子どもは心身の様々な機能が未熟で関連しあっており未分化であることから、体調やイヤイヤ等の心の状態に保育者は気付き読み取りながら援助していくことが大切ということを学ぶことができた。

学んだことを生かして、毎日の中で時には「今日は朝から少し機嫌が悪いからここまでにしよう」という判断をすることで、子どもも気持ちよく日々を過ごすことができ、また、自分自身も心に余裕をもって保育を進めていくことができた。

あそび

やってみたいと思える環境づくり



講義では安全な環境の中で、子どもが遊びを主体的に選ぶことができたり、見つけたりすることができる環境づくりが大切だということを学ぶことができた。

またグループワークを通して、自分の遊びのバリエーションが増えたり、子どもの遊びを見守る姿勢の大切さに気付くことができた。保育士が全てをしてしまうのではなく、子どもの様子を見て必要に応じた援助をしていくことの大切さを学ぶことができた。

保護者との信頼関係



対子どもから対保護者へ

保護者対応の研究会では、毎日子どもに対して実践していることを保護者と関わる時にも大切にしていくことで信頼関係を築いていくことができることを学んだ。

保護者の思いが分かれば、それに寄り添った言葉がけや援助をすることができる。子どもと違い、その思いが深く読みにくかったり、同じような行動でも人によって思いは違っていたりすることもある。毎日のコミュニケーション(挨拶、帳面、表情、声色、送迎時の会話)を大切に、保護者の思いを知ろうとしていくことが信頼関係に繋がっていくことを学ぶことができた。

研究会全体を通して

振り返り・話し合いが大切

研究会全体を通して、クラスで実践した遊び等の経過を振り返って書き出したり期間をあけて考察することで自分の保育や、子どもの様子を丁寧に振り返ったり成長を実感したりすることができた。

グループワークでは色々な発見があったり、悩みを共有したりすることができた。そのことで、改めて職員間でコミュニケーションを取り保育を振り返ることや悩みを共有していくことの大切さに気付くことができた。

研究会で学んだことを今後の保育に生かし、職員間でしっかりとコミュニケーションを取りながら保育をしていきたい。

研究会を通して学んだこと



①生活づくりで大切なこと

◎子どもの行動には理由がある

その小さな違い・サインに気付くことが大切である。気付いてもらえることで基本的信頼感が生まれ、子どもは安心して自分から力を発揮することができる。

◎保育者の願いではなく、子どもの思いを尊重する

例えばトイレなら「トイレに行こう」ではなく、「おしっこ出る？出ない？」と聞き、子どもが自分で決められるようにする。そして行けたときには、「トイレ行けたね」と声掛けをする。

②遊びについて学んだこと

◎子どもが自らやってみたいと思える環境をつくる

0歳児にも意思があり、興味があると、自ら進んで遊びに行く。一人ひとりが今、何に興味があるのかを考え遊びに取り入れていく。

◎禁止や制止をしなくても済む環境づくり

意欲をもっているときは、なるべく止めないようにする。安心安全な環境を整えることで、保育者にも余裕ができ、子どもと一緒に遊びを楽しむことができる。

③保護者との信頼関係で大切なこと

◎日常からの関係づくり

保育者は何らかの形で毎日保護者と関わりをもつことができる。日々のコミュニケーション（挨拶を含む）を通して少しずつ信頼関係をつくっていく。

◎保護者との信頼関係＝子どもとの関係づくり

子どもとの信頼関係ができることで、話すエピソードが増えて、保護者とのコミュニケーションが増える。

また子どもからの声で安心したり、大切に感じてくれているとすることができる。

④研究会で学んだこと・抱負

乳児期は発達が著しく、これから成熟していく大切な時期である。

生活・遊びの中で、子どもの思いや気持ちに気付き、主体性をもって保育をしていきたい。

子どもにとって安心できる存在になり、子どもが安心して「挑戦してみよう！」「やってみたい！」という意欲を育てていきたい。

保育実践（乳児保育）研究会 まとめ

1. 子どもの力が発揮される環境づくり

子どもは安全が確保された環境で安心して過ごすことで力が発揮できる

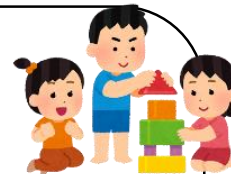
子どもの安心感はどうつくっていくか

- 子どもからのサインを見逃さず適切に応える
- 自分の意思で選択できるようにする
- 身近な大人による見守り
- 楽しさを共感できる友達や異年齢児との関わり



2. 『乳児はすぐ飽きる』は間違い

遊びの楽しさは子ども自身が決める



子どもが自分で興味・関心をもって楽しめるように

- 玩具は遊び方が決まっているものではなく遊びを広げていけるような素材を選ぶ
- 保育者が考える遊びの形にすぐにつなげようとしない
- 子どもの目線、動きに合わせて環境設定を行う
- 子どもの目の前で楽しい気持ちに共感する

3. 信頼関係は『理解』が大事

信頼関係づくりでは保護者と保育者が互いを理解し合うことが大事

保護者と信頼関係を築いていくために

○共感、寄り添う姿勢

- 話を聴いて共感する
- 言語や文化、考え方を理解しようとする

○思いや変化に気付く

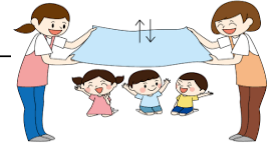
- 表情や態度、声色などからいつもと違うことに気付く
- 待つのではなく自分から働きかけていく
- 日々コミュニケーションをとる（挨拶、世間話など）



4. 研究会で学んだこと、生かしたいこと

研究会を通して自分の保育を振り返り一人ひとりに寄り添った関わりを意識することの大切さを学び、実践することができた。また、遊びの場面の関わりでは、保育者がやって見せて遊び方を知らせることも大事だが、子どもが遊びを広げていけるように見守ることも大切だと学んだ。遊びに興味をもてるような環境づくりや子どもの主体性を育てることを意識していきたい。遊びに関してはグループワークでいろいろおもちゃや遊びを知ることができ、実践できたものもあるが、他にも取り入れたい遊びがたくさんあるため、子どもたちの興味・関心に合わせてこれから実践していきたい。

保育実践(乳児保育)研究会で学んだこと



① 乳児の生活づくりの中で、子どものサインに適切にこたえることの大切さ

- ★子どもがサインに適切に伝えてもらうことで、
自分は大切にされているなどの自己肯定感の基礎が育まれる
- ★給食の場合・・・保育士は食べてほしいという思いがあるが、子どもは苦手なものは食べたくない⇒食事の根本は楽しい給食であることなので、気持ちよく食事を終えられるように、子どもの気持ちに寄り添っていく
- ★排泄の場合・・・保育士のトイレで排泄できるようになってほしいという思いからトイレ行くよ！！の声掛けになりがち
⇒トイレ行く？おむつ変える？など自己決定できる声掛けにする

◎その日の体調や身振りなどから思いを読み取り、強制しないようにすることが大事。

◎これ以上は楽しくなくなるといった時が切り上げ時なので、給食や排泄時の子どもの様子や会話の中からサインを読み取っていく。

③保護者との日常からのコミュニケーションの大切さ

- ★送迎時の何気ない会話からコミュニケーションをとるようにしていく。
- ★保護者と成長していることの喜びを共有する
⇒気持ちや思いを『受容・共感』する
⇒言葉通りではなく、相手の求めていることを探す
⇒何気ない関わりから信頼関係を築いていく



◎保育中に子どもと接しているときに、目線を合わせたり、傾聴したり、承認したりして関わっていることを保護者対応でも活用していく。

◎何かあってからではなく、何も無い時だからこそコミュニケーションを取り、保護者との信頼関係を築いていくことが大切と感じた。

◎保護者の本当の気持ちを読み取ることも大切。(相談や苦情など)

②興味をもって遊びを楽しめるような環境づくり

- 遊びの楽しさは子ども自身が決める！！
五感を使って自由に遊べる環境づくりが大事！
- ★遊びが決まっているものよりも、素朴な素材(新聞紙や粘土など)で、子どもの発想で遊びが広がるようなものを取り入れる
⇒子どもが自分で「見つけられる・選べる」環境にする
- ★保育士や友達が楽しんでいる姿を見せたり、楽しさに共感したりする
⇒他者の姿が「感じられる」「見える」環境にする
- ★安全な環境づくりをして、保育士がゆとりをもって子どもに寄り添えるようにする
⇒できるだけ禁止や制止をしなくてすむ環境づくり(遊びのコーナー分けや保育士の配置など)

◎保育士と一緒に遊びを楽しみながら、なぜそこに興味をもったのか考えたり、更に遊びを広げることができるよう素材を工夫する。

◎制止や禁止をできるだけしなくてすむように、安心して安全に遊びに集中できる環境づくりを大切にしていこう。

④まとめ

- ★子どものサインに適切に伝えることの大切さを学んだ。
こちらの思いやねらいなどは大切だが、子ども自身がどう思っているのかどうしたいのかを適切に読み取り、それに寄り添うことで信頼感や自己肯定感の基礎が育まれることに気付いた。
- ★子どもを主体として尊重することが大切。
子どもの選択を尊重することで自分でしたい気持ちなどが育っていくことを再確認できた。また、子どものしたい気持ちを先取りせず、見守ることもとても大切だと気付いた。
これからも、様々な経験や感情を得ることができるよう、子どもや保護者に寄り添うことを大切に保育をしていきたい。



1 乳児の生活づくり 「こんな風に大きくなってほしいな～」

○保育士の願い・見通しは大切

→強制することではない！「今日は難しいかな」という判断も大切。

・子どもは安心する保育士や安全な環境があり見守られているから「やってみよう」という気持ちが表れてくる。

○子どものサインに気付くこと。

・言葉では気持ちを伝えられない子ども達の思いを読み取ろうとする事で関わりが丁寧になり、子ども達との関係作りにつながった。

2 乳児の遊び 「楽しさは子ども自身が決める」

○乳児期の遊びはすぐに飽きるは間違い！

→子どもはこうしたいと思ったら工夫してやろうとする。面白くなかったら諦めると気付けた。

○保育士の意図や思いと違うからこそ子どもの姿から振り返る。

・子ども達の姿から振り返ることで保育士が気付けていない遊び方や楽しさが見えた。

○子どもの楽しさに寄り添う余裕を生むために・・・

・禁止や制止をしなくてもすむ環境をつくることで保育士も子どもも安心して遊びに集中でき、楽しさに共感できる。

3 保護者との信頼関係づくり 「保護者の話に共感を！」

○相互理解

・対子どもで培ったコミュニケーション能力を対保護者でも使う。

・悩みを共感的に受け止め、自ら保護者に働きかけていく。余裕のない保護者には手助けも必要と気付いた。

・保護者と保育士の認識の違いがある。だからこそ、伝えたつもりでいたことが伝わっていないことがあるので、実物や具体的に分かりやすく伝えることが大切だと考えた。

○子どもとの信頼関係は保護者との信頼関係にもつながる。

・家庭で子どもが保育園でのできごとを楽しそうに話すと保護者も安心し、信頼関係につながっていくと学べた。

4 まとめ 乳児期の大切にしていきたいこと

乳児期の生活と遊びは安全に過ごすだけでなく、大好きな保育士がいるからこそ安心して思いを出し、受け止めてもらえることで「やってみよう」という気持ちが芽生えるのだと気付けた。安心して子ども達が過ごしていることが保護者に伝われば保護者との信頼関係もできて家庭での悩みも話してくれるようになるのではと考えた。これからは、子ども達が安心して過ごせる環境をつくり、保護者にも保育園で楽しんでいる様子を伝えていけるようにしていきたい。



保育実践（乳児保育）研究会で学んだこと



【生活】

「自分でしたい」という気持ちに添った援助

- ・安心できる見守りの中で「自分でできる喜び」を育てる
- ・着脱等体調によって今日は難しいと判断することもあるため、保育者の思いが先行しすぎないように関わっていく
- ・遊びを取り入れながら行動できるように工夫する

保育者の見守りがあることで、子どもは安心して挑戦でき、またやってみたいという気持ちが育まれる

【遊び】

興味をもって自ら働きかけたくなる環境づくり

- ・禁止や制止をできるだけなくて済む環境づくり
- ・子どもの興味に合わせた遊びの提供
- ・保育者が楽しんで遊ぶ姿を見せることで、子どもがやってみたいと思える、楽しさと「出会える」環境をつくる

例えば、積み木を積み上げるのを楽しむことができる空間や、積み上げたものを壊すことを楽しめる空間をつくる

記録や振り返りの大切さ

☆記録をとることによって

- ・子どもの姿をよく観察するようになる
- ・保育者自身の保育の振り返りにつながる
- ・新たな気付きになる

【保護者との信頼関係】

「わかりました」の一言に含まれる様々な意味

- ・コミュニケーションの問題が起きる原因の一つに「言語のメッセージ」と「非言語のメッセージ」のギャップがある
- ・「わかりました」の言い方や言葉のトーンによって理解、本心・回避、あきらめ・拒絶、怒り等様々な意味に受け取ることができてしまう

一人ひとりの思いを受け入れられる保育を目指して

実践記録やグループワークの中で、今年の私は保育者の思いが強かったなと感じるきっかけになった。幼児に向けてできるようになってほしいことや、自信をもって欲しいなどの気持ちから、「できない、やって」と言う子どもの思いを「できるよ！ やってごらん」と見守ることが多かった。その結果少しでもできないと泣いて、毎回のように保育者に「できない」と言うようになってしまった。まだまだ小さな子どもであり、手伝ってほしいときももちろんあるため、「てつだって」と思いを伝えてくれた時は子どもの思いを受け入れていきたい。



個々の思いに添った援助に向けて

乳児期に大切にしたい「思い」「意欲」「主体性」って？

・**思い**：まだ言葉にならない子どもの「意思」や「思い」を尊重して保育を行っているか

→すべての子どもが明確なサインを発する訳ではない乳児保育。表情、態度、様子から要求や欲求に気づき、汲み取っていく

・**意欲**：安心感の中で意欲を育てる

→「できた！」を共感、喜び合うことで次の意欲や自信につながっていく。「自分でできる喜び」を増やす環境づくりを

・**主体性**：「自分でしたい」という思いに沿った保育

→「やってみたい、したい」という気持ちを大切に。心が動く瞬間が“発達”
→大人がいくらでも誘導できてしまう乳児保育だからこそ、強制になっていない？保育者の思いが先行しすぎていない？と振り返ることが大切

場面ごとのポイントって？

保護者との信頼関係づくりで大切なこと

○保護者の思いを受容、共感すること

- ・思いを受容することと行動を許容することを分ける
- ・言葉通りではなく、相手の求めていることを探す

○保護者の不安を軽減する

- ・「大丈夫」という言葉だけでなく、相手の求めていることを探す

○保護者の性格や状況を理解

・保護者が納得できる関わり方を意識することで相手に届き、相手が理解する

(例) 伝え方の工夫…写真、イラスト、メモ、口頭
話しかけるタイミング など



★子どもへの対応と共通する点が多くある！！

生活面

○自分で決める場面をつくる

意思や状況を確認しながら、子どもが自分で決めて行えるように援助
(例) ×トイレ行くよ→○おしっこ出る？出ない？行く？行かない？

○常に保育者の見守りがあるという安心感

「自分でしたい」「やってみる」気持ちは、安心できる見守りの中で育まれていく

○気持ちの良いこと楽しいことに共感、心地よさを共有

(例) 「便器でおしっこできたね！」→「おしっこ出て気持ち良かったね」

⇒できる、できないの声掛けだけでなく、子どもの気持ちに共感する声掛け



遊び

【0歳児】：楽しいことと出会うことから始まる

【1, 2歳児】：「いっしょ」がたのしい

○遊びの楽しさは子ども自身が決める

どれを選ぶのか、使うのか、同じことをするのか、違うことをするのか、大人は何を楽しんでる？見てる？に注目。できないことはあきらめるが、「できた！」で遊びは続き、次につながる。

○保育者が思う「遊びの形」に急いでつなげない

保育者の意図や思いと違ったときこそ、子どもの目線で考える
選ばなかった方ではなく選んだ方に目を向ける



～研究会での学びを通して、自分自身が変化したこと～

◇子どもへの必要以上の声掛けが減り、見守りが増えた

◇待ってみる、子どもの姿を分析することを意識するようになった

◇グループワークで同じ年齢を担当する保育者と遊びや玩具を共有することで、遊びのバリエーションや工夫の仕方が広がった

◇子どもの姿で悩んでいたことの視点が変わり、自身の関わり方を見つめなおしたり、子どもの思いを尊重した関わり方を意識したりするようになった

保育を記録することで自身を振り返り、気づきを得た ⇒ 研究会で共有、分析、発表することでさらに他の視点に気付くことができた

～保育実践(乳児保育)研究会まとめ～

乳児の生活づくりについて

子どもたちが力を発揮できる環境作り

☆安心・安全な環境を整えることで力が発揮できる！

- ・要求を受け止めてくれる人がいるから発達していく
 - ・大人や友達へ目が向いてくる
 - ・“発達の著しい時期”の保育は一人ひとりに合わせた対応が大切！
- 子どものサインに応えるためには、気付き・読み取る力が必要！
- ・言葉にならない思いを受け止めることで自分は大切にされていると知る。
- 子どもの思いを尊重して関わっていたか？
- ・子どもをよく見て、記録をとることで子ども理解が深まる
 - ・生活のどこを見直していくといいか“願い”と“見通し”をもつことが大切



保護者との信頼関係づくりについて

信頼関係は「理解」から始まる！相互理解の大切さ

保護者の「本当の気持ち」を探す

☆保護者の思いを受容、共感することが大切！

- ・毎日の丁寧な関わり、日常からの関係作り
 - 誠実に、丁寧に、具体的に伝えること
- ・いっしょに考えること→子どもを大切に思うからこそその心配や不安を受け止めていく
- ・苦情・相談→否定せずに聞く
- ・保護者の自己選択・自己決定が重要！！
 - 話をしながら、保護者自身が気付いていくことが大事



「気にすることないですよ」と安心させるつもりが「分かってくれない」になることも…。



乳児の遊びについて

楽しさとの出会いをつくる

☆それぞれの興味・関心を大切に！「いっしょ」が楽しい！！

- ・安心して遊びに集中できる環境「安全」と「活動性」を両立する環境づくり
- やってみたいことと「出会える」環境
- 子どもが自分で「見つけられる・選べる」こと、必要なものは子どもの視界に入る場所、他者の姿が“感じられる”こと、できるだけ禁止や制止をしなくて済む環境づくりが重要！
- ☆子どもの遊びを子どもの思いや育ちの視点をもってみることで、援助の仕方や子どもへの共感性が高まる。

～まとめ～

☆研究会を通して、実践や意見交換、振り返りをすることで…

気付きや学びが多くあり
次の保育につながった

遊びの幅や保育内容の
幅が広がった

コミュニケーションは
どう伝えたかより、
どう伝わったか

環境の工夫や保育の悩みを共有できた
主体性の大切さを改めて感じた

子どもから「せんせいだいすき♡」と聞くことで保護者の安心につながる

研究会で学んだことを生かして…

☆子どもの姿をじっくりと見守り、働きかけていきたい

☆受け手を主体にしたコミュニケーションができるよう学んでいきたい

**生活・遊び・保護者との関係・保健的な対応・職員間の連携、協力等
全てのことが重なりあって乳児保育がある！**

1 乳児の生活づくりについて学んだこと

- ・言葉では発信できない意思表示を見逃さない
- ・子どもたちの安心感をどうつくっていくか
- ・こうなってほしいと願いはもっていても“今日は難しいかな”と思う気持ち、判断することで子どもの気持ちに寄り添った働きかけをする

2 乳児の遊びから学んだこと

- ・やってみる（経験）→その場で認めることで、自分是可以するという自信をもつことができる声掛けをする。（大丈夫だよ、できるよ）
- ・ルールのある遊び、共同遊びをすることで人とうまく関わる力＝社会性が育つ
- ・安全が保障される、安心して過ごすことができることで力が発揮できる
- ・それぞれの興味、関心を大切にする

3 保護者との関係づくりについて学んだこと

- ・保護者のタイプに合わせた伝え方をする
- ・子どもの育ちの具体的な見通しを知らせ安心につなげる、納得や理解につながる働きかけになっているかが大切
- ・子どもの口から園の話を聞くことで様子が知れて安心する
ブロックで遊んでいて〇〇ちゃんとケンカする、初めは保育者が仲裁に入る。子どもの姿を見て思いや意見を伝え子どもだけで仲直りする姿が見られる。そのことを保護者に伝えると子どもから聞いてますと報告を受ける。保育者と子どもの話が一致することで安心し、保護者により深い話ができる関係となる。

4 保育者として大切にしていきたいこと

- ・日々の子どもの表情や姿（生活、遊び、友達との関わり）をしっかりと見て見逃さずに子どもが何を考えているか、何を伝えたいかを受け止め一人ひとりに合った声掛けや援助、働きかけを行うこと
- ・子ども自身が「楽しそう、やってみたい」と思い、自ら選んでやってみようと思える環境、危険なこと以外出来る限り禁止や制止をしなくてもいい環境をつくっていくために保育者自身が楽しむ姿を見せる、そして遊び方を知らせていくことで保育者、友達と一緒にする楽しさを伝えていく
- ・楽しく園生活を過ごしていけるように保護者が安心して子どもを預け良い関係を築くため子

保育実践（乳児保育）研究会 まとめ

～生活づくり～

- 日々の保育を振り返ること → 子どもたちのことをじっくり考え、些細なことにも気付ける。
- 欲求や要求のサインを読み取ること → 保育者の思いが先行しないように”今日の姿”を読み取る。
- 安心できる環境づくりをすること → 子どもたち自身が安心して挑戦できる環境をつくること。



～遊び～

- 禁止や制止をしなくてすむように → 保育者の普段からの立ち位置や保育室の安全な環境構成を考えること。
- 今、興味のあることに注目する → 普段の遊んでいる姿から面白さや楽しさを拾って保育に反映していくことで子どもたちの遊びが主体性をもって広がっていくようにする。
- 子どもたちなりの遊びも一緒に楽しむ → 保育者が想定していた内容とは違い、子どもたちなりの遊びの広がりが見られたときは軌道修正しすぎず、新しい遊びとして楽しめるようにしていく。



～保護者との関係づくり～（信頼関係）

- 見通しをもてる伝え方の大切さ → 些細なことでも”大丈夫”で終わらせず、分かりやすい言葉一つ一つ丁寧に伝える。
- フィルターをかけて判断しない → 相手の背景や状況を考え、相手のことを知る。
- 丁寧さを心掛ける → 納得や理解につながる働きかけになっているか、相互理解につながるようにする。



研究会を通しての学び、
今後大切にしていきたいこと

- 子どもたちの日々の変化（欲求や要求）、その日の気持ち、遊び等、いろんな面に注目して柔軟に対応し、保育者の思いだけが先行しないようにすること。
- 日々の保育を振り返りの中で、自分自身の振り返りも大切にすること。
- 保育者が考えていた遊びが子どもたちの発想から変っていても無理に軌道修正せず、子どもの主体性を大切にしていく。
- 今、興味のあることに日々注目し、保育の中に取り入れていく。
- 保護者との関わりは、まずは”相手を知る”ということを大切にする。
- 保護者と話すときは、見通しをもてる言葉で丁寧に伝え、安心につながるようにする。

子どもの思いに添った保育をするために



1. 乳児の生活づくりについて

○場面記録から考える

場面記録をとることで…

- ・そのときは見逃してしまっている子どものサインに気付くことができた
- 次にそのサインが出たときには気付き対応することができた

グループワークを通じて…

- ・いつもは流れてしまうような生活の場면을切り取って話し合うことで子どもの気持ちについて深く考えることができた
 - 他の声かけの仕方を知ることができた
- 学んだこと
- ・保育者の働きかけでこれが正解というものはない
 - 子どものその日の体調、姿で柔軟に対応していくことが大切
 - ・保育者の働きかけで子どもが泣く＝子どもの思いと働きかけが一致していない
 - 子どもの思いを汲み取り様々な援助方法を試し、思いを受け止めようとするのが大切

2. 乳児の遊びについて

○実践報告から考える

実践記録をとることで…

- ・自分の保育を文字にすることで、丁寧に保育を振り返ることができる
- 子どもが何に興味をもっていて何を楽しんでいるのか、同じ遊びでも子どもによって遊び方が違うことが分かり、保育の課題が見えてくる(発達に合っていない、繰り返し遊んでいない、遊びに満足していないなど)
- ・子どもがどんなことをしているのか、どんな会話をしているのか視点をもって見るができる

グループワークを通じて…

- ・他の先生の実践を聞くことで自分の保育の幅が広がり、遊びの種類が増えた
 - ・自分が考えていた意見とは別の意見を聞くことができる
 - 視野が広がり、次の保育時の声かけや遊びの内容などの選択肢が増えた
- 学んだこと
- ・子どもの興味を知ることで、今後、子どもへ提供したい遊びが生まれてくる
 - ・できるだけ禁止しなくて済む環境づくりをすることで保育者に余裕が生まれ、遊びに集中することができる

3. 保護者との信頼関係づくりについて

○関係につながった事例から考える

大切なことは何か

- ・日々子どもと関わっていく中での何気ないできごと、少しの成長を伝えて一緒に喜ぶ
- ・保護者の声色、表情、雰囲気などを読み取り話しかけるタイミングを考え伝える
- ・保護者も一人の人間であることを理解し、否定することなく意見を尊重して話をする
- ・子どもの話だけではなく保護者の話にも耳を傾け気持ちに寄り添う

そのためには…

☆保護者との信頼関係を築くためにはまず日々の保育で子どもとたくさん関わり子どもとの信頼関係を築いていくことが大切！

○学んだこと

保育者が当たり前だと思っていることも保護者にとっては初めてのことで、知らないことが多い。そのことを意識し保護者へねらいや内容を伝えることで少しずつ保護者の不安を取り除いていけることを学ぶことができた

4. 研究会全体を通して

○乳児期の発達状況を理解したうえで自分のクラスに合った遊びを提供することの大切さを学ぶことができた

○同じ年齢のクラスでも子どもの姿は異なることを知ることができた

○それぞれの保育の方法、展開の方法などみんなで共有し話し合うことができた→1つだった意見がいくつにも増え自分の保育が広がり、様々な意見から保育の展開を考え、子どもへの声かけをしたことでより楽しんで保育ができた

○生活でも遊びでも保育をして終わりではなく、振り返りをする中で気付くことがあると学ぶことができた

○保育者の思いだけでなく子どもの姿や気持ちを考え、保育を展開していきたい

○学んだこと（援助の方法、遊び、環境）などを意識して今後の保育に取り入れていきたい



乳児の生活づくり

○子どもの思い（サイン）を読み取る！

思いが生まれ、欲求が強くなる一方で言葉はまだ未発達

⇒☆サインに気づき、読み取る力が必要

乳児保育で大切な専門性

→表情や態度などの言葉以外の表現

サインに応えてもらうことで「自分は大切にされている」という

自己肯定感の基礎、基本的信頼感が育まれる

◎意思表示のあり方は子どもそれぞれ

すべての子どもが明確なサインを発するわけではない

言葉以外の表現に目や耳を傾け、“その子なりの”サインを感じ、

反応を見て関わるのが大切

○安心できる見守りの中で自分でできる喜びを育てる

乳児は安全が保障され、安心して過ごすことができることで力を発揮できる

☆「見ててもらう」ことが子どもの行動の支えになる

大好きな先生が見てくれるから頑張れる、やってみようとする

発達の
段階

してもらう → 見てもらって自分でする → 自分でする

乳児の遊び

○遊びの楽しさは子ども自身が決める

×「乳児はすぐ飽きる」

→“こうしたい”と思ったら工夫してやってみる姿がある！

“できたこと”をゴールとするのではなく、この後どうしたくなるのか子どもの様子を見る

できた！

もう一回したい！

満足、もうおしまい！

何をしようとしているのかな？

☆どこで何をもって子どもが“満足”とするのかを見ていく

◎保育者が考える「遊びのかたち」につなげようとしな

→保育者の意図や思いと違ったときこそ、子どもの興味関心を読み取る

○「安全」と「活動性」を両立する環境を整える

☆できるだけ制止や禁止をしなくていい環境づくり

保育者自身も余裕ができ「危険がないか」より「今子どもが何を楽しんでいるか」を見ることができる

保護者との関係づくり

○保護者との信頼関係は「理解」から始まる

≪ 2 種類の理解 ≫

・ 保護者が求めていることを理解する

⇒適切な援助につながる

・ 保護者が理解、納得する

保護者の様子や背景の把握を踏まえ、

理解につながる働きかけを

理解や受け取り方には多様性がある
相手にどう伝わるのか、受け取り手の立場に立つ

子どもとの信頼関係が保護者との信頼にもつながる！

子どもから実際の話として聞ける安心感

保護者との直接的な関わりだけでなく、

子どもを介しての間接的な関係の築き方もある

研究会を通して

○実践報告、グループワークからの学び
実践報告をしたり交流したりするなかで、
子どもの姿で新しい気づきがあった
また、アドバイスや様々な意見をもらう
ことで実際の保育に生かすこともできた

乳児の生活づくり



《発達の著しい時期》

- ・安全・安心を保障
- ・子どものサインに気付き、適切に応えることが大切
→大人の一方的な働きかけはせず
子どものやりたい気持ちを育むように

【子どもの発達】

大人にしてもらう(土台)

↓
見てもらって自分で

↓
見てもらわなくても自分で

安心のある見守りがあって自分でできる



保護者との信頼関係づくり

《状況と思いを尊重しながら》

- ・保護者の気持ち、思いを受容・共感することが大切
- ・自分基準にせず、受け手を主体にしたコミュニケーションを
→人によって受け取り方は違う
伝える時は相手に合った方法で(端的、簡潔、メモ、写真提示等)
- ・信頼関係をつくるには保護者と「ともに」が大切
子どもの成長と一緒に喜び、悩みに寄り添う
- ・保育者は対子どもで培った能力を対保護者にも生かす
(保護者の状況、スタンス、性格等を読み取る)=専門性を生かす



乳児の遊び



- ・興味が生まれる環境に出会う
→身体が動く、自ら働きかける=心が動く

0歳: 向かい合って大人と楽しさを共感⇒友達同士につながる
安心して遊びに集中できる環境(禁止、制止をしなくてすむ環境)
=安全・安心の環境は保育者の余裕を生む

1・2歳:「いっしょ」が楽しい(時間、場所。同じことだけでなく)
それぞれの興味関心を大切に(個性や固有性を保育者が見つけ広げていく)
対象教材の工夫(おもしろい、楽しい)
「安全」と「活動性」を両立する環境⇒0歳児とは違う課題

- ・遊びからの育ち:大人の意図と子どもの気持ちをいかに合わせるか
大人のペースではなく今後の見通しを子どもの姿から考える。何が楽しいのか軸を置き、子どもの思いが向くものを準備。楽しさは子ども自身が決める!

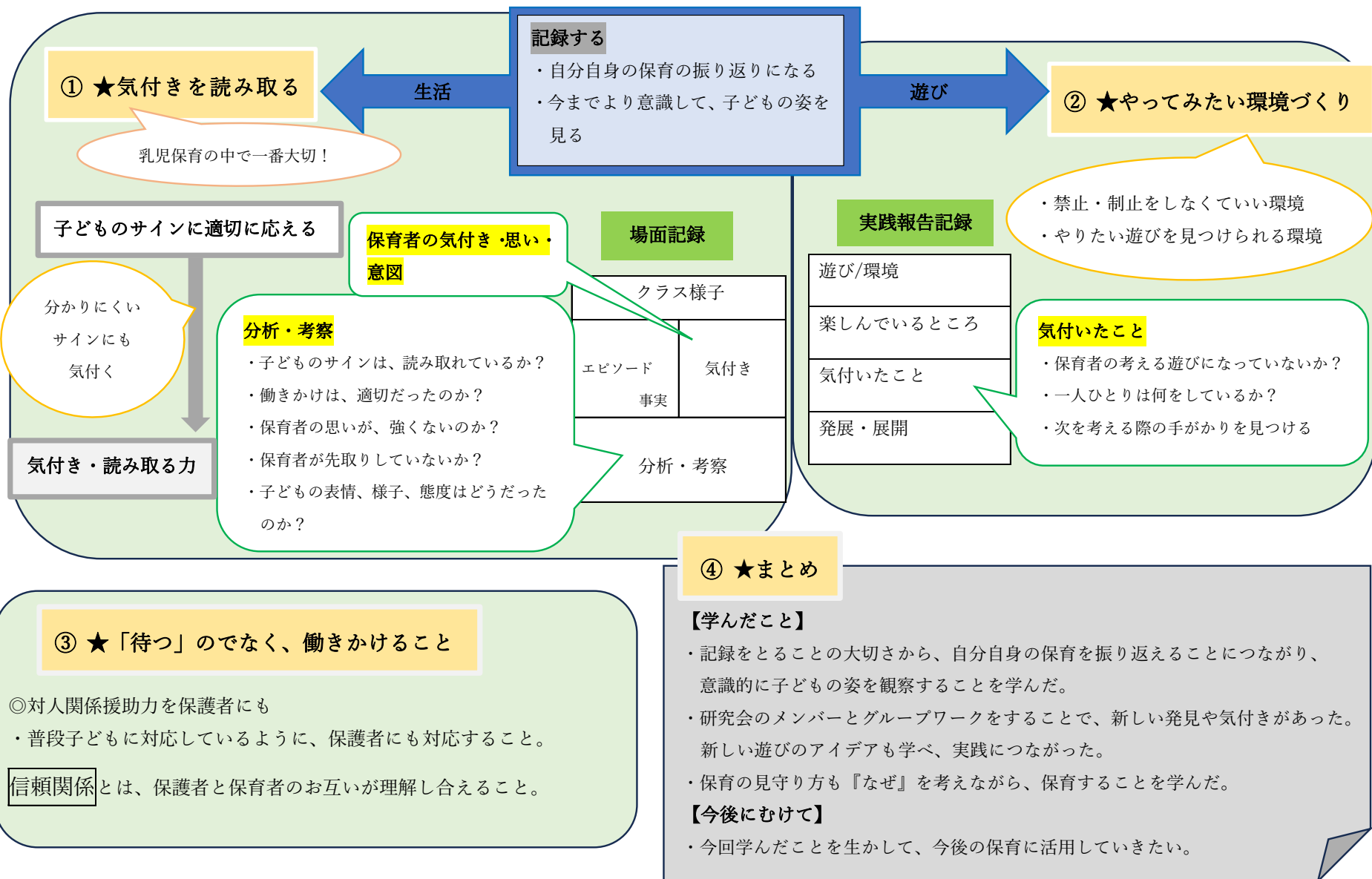


研究会全体を通して学んだこと

- ・子ども一人ひとりの特性や個人差をしっかりと把握し、子どもの思いを尊重し、子どもの思いに添った援助や対応が大切。
- ・遊びを選ぶときは子どもの目線に立ち、子どもの気持ちが向くものを取り入れる。また、保育者が楽しんでいる姿こそが最も大切な導入になる。
- ・乳児期は変化が著しい時期なので個人の性格や成長をしっかりと把握し、安全・安心の環境の中で一人ひとりに合った援助を丁寧に行っていくようにしていきたい。



保育実践研究会に参加して〈テーマ〉乳児期の発達理解～個々の思いに添った援助について考える



○乳児の生活づくりで大切なこと

・子どものサインに適切に応える
→サインは分かりやすいものもあれば微弱なものもある

・乳児なりの意思表示の仕方をいろいろな視点から考える

→「イヤ」:本当に嫌なのか
相手の気を引こうとしているのか

・苦手なことを頑張るには“支え”が必要

→“支え”:保育者が見守ってくれていること、
一緒に遊んでくれること等
人によって違う、今日と明日でも違う

・できるようになるまでの段階

- ① してもらう
- ② 見守られながら自分でする
- ③ 見てもらわなくても自分でする

・昨日できたことが今日も必ずできるわけではない(ずっとできないわけではない)

→“できるから手伝わない”のではなく、
“今日は難しいかな”
“何か理由があってできないのかも…”

・大人の要求に応えられたから褒めるのではなく、子どもの気持ちを承認する

→「ちゃんとトイレ行けたね」よりも
「トイレに行ってスッキリできたね」

○乳児の遊びと環境で大切なこと

・大人が“楽しさ”に出会う機会をつくる
→「させる」ではなく
「楽しいことを知らせる」

・「やってみたい」気持ちを大切にする

→対象に興味をもつことが五感を通しての探索につながる

・保育者が楽しんでいる姿こそ最も大切な導入

→乳児期は「いっしょ」が楽しい時期である

・できるだけ禁止や制止をしなくて済む環境づくり

・効率的に短時間でできる必要はない

→遊びにかかった時間だけ楽しんでいる
(ポットン落とし、パズル等)

・保育者が考える「遊びの形」に急いでつなげようとしない

→もっとおもしろいことを見つけたのかも
(保育者:ブロックを積み上げてほしい
子ども:ブロックを崩す音がおもしろい等)

・友達とのトラブルは思いのぶつかり合い

→伝える手段が十分ではないだけ
保育者が正誤、善悪を判断をしない

○保護者との信頼関係で大切なこと

・同じ言葉でもいろいろな感情が含まれている
→「わかりました」
理解・本心? 回避・諦め? 拒絶・怒り?

・人によって感覚が違う

→「後で連絡します」の“後で”とは、
1日以内? 3日以内? 1週間以内?

・誤解があった場合、不安や心配をかけたことを受け止める

→「不安になりましたよね」
「びっくりしましたよね」など

・保護者の感情をこちらの物差しで決めない

→×「気にすることないですよ」

・保育者は全体を見ているからこそ一人の特徴に気付きやすい

→保護者は“認めない”のではなく“知らない、気付いていない”可能性も

・子どもの様子から保護者の思いや状況を考える

→子どもが最近よく泣く
(保護者の仕事が忙しくて子どもと関わる時間が減っている、などの家庭背景があるかも)

まとめ

乳児保育において特に大切なことは“相互理解”であると学んだ。保育者と子ども・保護者との間には思いのズレもあるが、そのズレを把握すること、そして歩み寄ろうとすることが大切である。研究会では子どもや保護者について様々な視点から考え、相互理解のための意識の改善ができた。この学びを生かして今後も視野を広くもち、子どもと保護者の思いを大切にできる保育者でありたい。

保育実践（乳児保育）研究会

乳児の生活づくり

- ・子どもが安心して過ごせる環境をつくる
⇒けがをしないよう見守るだけではなく、大好きな先生が見てくれているという安心感があること
- ・その為に、子どものサインに適切に応える
⇒サインは子どもの表情・様子・態度から読み取る
子どもによって、しっかりとサインを出す子どももいれば微弱なサインの子どももいるため、**気付き・読み取る力**が必要である
⇒子どもたちは自分が出したサインに適切に応えてもらうことで「基本的信頼感」が育ち自己肯定感の基礎が培われ、それが安心して過ごすことにつながっていく

乳児の遊び

- ・子どもたちが遊ぶ楽しさに出会う為には、大人が楽しんで遊ぶ様子を見せる
⇒子どもにとって最良の導入となる
- ・大人が考える「遊びの形」に急いでつなげようとしない
⇒遊びの楽しさは子ども自身で決める
- ・子どもたち全員が遊びの輪の中に入っていなくても、友達の様子を見たり、その場にいるだけでも楽しみ遊びに参加している

子どもが安心して楽しく過ごせる環境

保護者との信頼関係づくり

- ・保護者との信頼関係を築くには？
⇒日頃から子どものことや世間話などでコミュニケーションを取る
- ・保護者の様子を見ながらコミュニケーションを取っていく
⇒子どもに対して培った、様子を見る・変化を読み取る力を保護者にも使って関わっていく

信頼関係は理解することから始まる(相互理解)

⇒保護者の思いを受け止めるのも勿論大事だが、それと同時に保育者の思いも保護者に理解・納得してもらえるように伝えていく！

まとめ

乳児の生活づくりや遊びに関して、「もっとこうしてほしい」「こうしたら楽しいのに・・・」など保育者としての願いが強すぎる部分があることに気付いた。それが子どもにとって良いことなのか？本当に安心して過ごせているか？など見直すことが出来たり、自分の保育を振り返ることが出来たりと貴重な時間であった。

子どもたちが安心して、楽しく過ごすことができるより良い環境をつくっていきたいので、子どもたち一人ひとりのサインを見逃さず、成長に合った関わりや遊びをしていきたいと思った。

研究会で学んだこと

- ・グループワークで同年齢の子どもを保育している先生方と保育の工夫やアイデアを交流し、悩みを共有することができた。広い視野で自分の保育を見つめなおして振り返ることにつながり、たくさんの気づきや学びがあった。
- ・生活面の自立を進めるにあたり、「保育者と一緒にする」→「保育者に見守られながらする」→「自分でやってみる」→「できた」と感じる、このような段階を踏んで自立に向かっていくことを学んだ。
- ・保育士の願いはもっていても、子ども一人ひとりの姿を見て「今日は難しいのかな」「甘えたいのかな」と子どもの状況や気持ちに寄り添うことで、子どもの安心感や信頼関係づくりにつながることを学んだ。
- ・場面記録を作成し振り返ることで、子どもの行動や表情などをより注意深く観察し、保育士の関わりを客観的に考えることにつながり、学びや気づきが多かった。

自分の保育で変化したこと（研究会に参加し学んだことで）

- ・環境構成や遊び方を工夫したり、新しい遊びや環境をつくって試してみたりすることが増えた。
- ・禁止や制止の言葉ができるだけ少なくなるよう、少人数での遊びを取り入れたり、子どもたちの今やりたい遊びをかなえることができるような環境や保育を考えられるようになってきた。
- ・保育を振り返った時に、大人が考える楽しい形にもっていかうとしてしまっていることがあることに気づき、遊び方は知らせるが、遊びに参加しない子どもを無理に参加させようとせず、何に楽しさを感じているのかを考えながら見守ることを心掛けるようになった。

研究会での学びを生かして今後どのような保育をしていきたいか

- ・目の前の子どもの思いに気付く視点を大切にしていきたい
- ・乳児期は言葉での意思表示が難しい時期であるので、保育士が行動や表情からそれぞれの思いに気づき、好きなことや苦手なことを知った上で、活動を考え、個々に関わっていくことが重要であり、その関わりが子どもの安心感や信頼関係の構築につながると思うので意識していきたい。
- ・禁止や制止をしなくても良い環境にすることで、子どもも保育士も安心して遊びを楽しめるようにしていきたい。

乳児保育研究会 講師総評

乳児保育についてみなさんと学ぶことができて、とても充実した1年でした。10回の研究会に参加すること、記録をもち寄ることは、忙しい業務の中、決して容易なことではなかったと思います。ありがとうございました。

本研究会では、乳児保育について、①生活づくり、②あそびと環境づくり、③保護者との信頼関係づくりの3点から、記録を通して実践を交流しながら研究してきました。この3点は、いずれも、乳児保育を豊かなものにするために不可欠な視点であり、どれが欠けても乳児の健やかな発達を保障することはできないと考えています。

生活づくりで大切にしたことは、「乳児にとって主体的で快適な生活」です。食事、排泄、片づけの場面などでの悩みと実践を出し合いながら、「乳児にとって主体的で快適な生活づくりとは？」を考えてきました。「〇〇ができるようになってほしい」という願いが強くなりすぎて、強制になっていないかと問い直しながら、「今日は**かな」と子どもの状況の見極めること、「やりたい」「やりたくない」などの子どもの思いに寄り添うこと、子どもが気持ちを切り替え、自分から生活に向かうために援助することが大切であることを学びました。

あそびと環境づくりでは、「発達にふさわしいあそびとは？」「おもちゃや環境はどのように整えたらいいか？」について考えました。手づくりおもちゃをもち寄って交流し、教え合ったあそびやおもちゃをとり入れて、次の月に報告してくれる参加者もいました。保育者が思った通りのあそびにならなかった時にこそ、「子どもがちがう楽しさを見つけた！」と見ることの大切さも確認しました。

保護者に関しては、「保護者支援」ではなく、保護者との信頼関係づくりに焦点を当てました。対子どもで培った対人関係能力を活かして、保護者の思いに寄り添い、子どもの育ちをともに喜び合いながら、いっしょに考えることの大切さを学び合いました。

報告会で、多くの参加者が「記録することの大切さ」を語っていました。記録することで、子ども理解が深まり、子どもに合った保育内容の選択・環境づくりができます。これからも記録を書くことを大切にしてほしいと思います。この1年間で学んだことを活かし、ますます豊かな乳児保育を展開されますことを期待しています。

長瀬 美子